

江戸の粋を今に伝える「静御前」

所蔵：栃木市^{やまとちよう}倭町三丁目町会（栃木県指定有形民俗文化財）

「静御前」は、いわゆる江戸型山車に分類される山車です。嘉永元年(1848)に製作された山車で、江戸の天下祭である山王祭において実際に使用されていました。

明治7年(1874)、栃木中町(現・倭町)の質屋兼回漕問屋であった井筒屋重兵衛が、東京・日本橋の商人から購入し、栃木へ移されたものです。

以来、この山車は倭町三丁目町会によって受け継がれ、現在に至るまで保存されています。

「静御前」の山車は、栃木市に最初にもたらされた江戸型山車であり、これを契機として、明治25年(1892)頃以降、^{よろずちよう}万町・倭町などで三代目原舟月に山車製作を依頼する動きが広がりました。

現在、「静御前」の山車は、『とちぎ秋まつり』において曳き出されるほか、『とちぎ山車会館』において展示・公開されています。『とちぎ山車会館』では「静御前」を含めた6台の山車が保管されており、定期的に入れ替えをしながら3台の山車が展示されています。

出典：千代田区教育委員会, 続・江戸型山車のゆくえ～天下祭及び祭礼文化伝播に関する調査・研究報告書～, 1999年, P191-192